

令和3年度 第1回岩村地域自治区運営協議会役員会

日 時 令和3年6月15日(火) 19時00分
場 所 岩村コミュニティセンター大会議室

1. 会長あいさつ

2. 服部市議あいさつ

3. 議事

①まちづくり懇談会について

7月15日(木) 午前9時～正午 地域出席者5名程度

②市長等への要望について

要望事項等の確認、要望時期

③ふるさと創生花火について {8/13(金) 午後8時 無観客、ライブ配信}

ふるさと恵那応援寄付金の活用 50万円 (全体事業費 150万円)

④各部会の開催について

地域計画の推進、進行管理、重点課題の対応 →7月以降に順次開催

4. 連絡・報告事項

①いわむら一斎塾特別講座(講師:朝比奈秀夫氏)について

②名刺の作成について(校正)

③恵那太陽光発電所(飯羽間)について

④令和3年度防災訓練(9/5)の概要について

⑤移動手段の見直しについて

⑥地域学校協働本部からの報告について

⑦映画「僕と彼女とラリーと」の啓発協力について

⑧イベント等の延期及び中止について

次回の会議 7月 日() 午後7時30分～

令和3年度 岩村地域自治区運営協議会役員名簿

| 役職名 | 令和3年度案 | 備考 |
|----------------|--------|----|
| 会長 | 西尾 公男 | |
| 副会長 | 山村 善保 | |
| 副会長 | 佐々木 繁典 | |
| 会計 | 鈴木 孝司 | |
| 監査 | 後藤 俊彦 | |
| 監査 | 鈴木 繁生 | |
| 訪れたいまち部会部会長 | 加藤 哲也 | |
| 訪れたいまち部会副部会長 | 瀬戸 利之 | |
| 住み続けたいまち部会部会長 | 松浦 史和 | |
| 住み続けたいまち部会副部会長 | 宮澤 博光 | |
| 笑顔あふれるまち部会部会長 | 小栗 廣泰 | |
| 笑顔あふれるまち部会副部会長 | 鈴木 隆一 | |
| 会長推薦 (3名以内) | 松井 宏次 | |
| 会長推薦 (3名以内) | 山本 耕嗣 | |
| 会長推薦 (3名以内) | 浅野 信之 | |

【地元市議会議員】服部紀史

【事務局】福平栄久 (岩村振興事務所長)

川原広子 (岩村地域自治区運営協議会)

まちづくり懇談会の開催について

所管課 地域振興課

1. 概要

市政運営及び地域の取組について理解を深めるとともに、地域の代表者からのまちづくりに関する意見又は提案を市の施策及び地域のまちづくりに生かすことを目的に、懇談会を開催する。

2. 主催 各地域自治区

3. 内容

(1) 現地視察

地域計画に基づき地域が主体で実施する事業箇所及び4つの政策の柱である「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業箇所等を視察

(2) 懇談会

地域の代表者と市長との意見交換

(3) 方法

視察及び懇談会の内容、進め方等は、地域の意向に基づいて実施

4. 日程及びスケジュール

| 地区 | 開催日 | |
|------|----------|----|
| 大井町 | 8月18日(水) | 午後 |
| 長島町 | 7月21日(金) | 午前 |
| 東野 | 7月5日(月) | 午後 |
| 三郷町 | 7月28日(水) | 午後 |
| 武並町 | 8月17日(火) | 午後 |
| 笠置町 | 6月22日(火) | 午前 |
| 中野方町 | 7月12日(月) | 午後 |

| 地区 | 開催日 | |
|------|----------|----|
| 飯地町 | 6月9日(水) | 午後 |
| 岩村町 | 7月15日(木) | 午前 |
| 山岡町 | 8月5日(木) | 午後 |
| 明智町 | 8月2日(月) | 午後 |
| 串原 | 7月8日(木) | 午後 |
| 上矢作町 | 6月16日(水) | 午前 |
| | | |

| 内容 | 午前の場合 | 午後の場合 |
|-----------|---------------|---------------|
| 現地視察(90分) | 9時00分～10時30分 | 13時30分～15時00分 |
| 懇談会(60分) | 10時50分～11時50分 | 15時20分～16時20分 |

5. 参加対象者 地域自治区会長、その他地域の代表者

6. 市の出席者 市長、副市長、まちづくり企画部長を予定

市長等への要望について

1. 各種団体等からの要望

- ①旧岩村振興事務所の整備・活用
- ②岩村城址公園散策ルート of 調査・研究
- ③岩村城跡保存整備

2. 自治会からの要望事項

①河川の浚渫

- ・岩村川（一本橋からあらき橋の間）
 - ・岩村川（岩村川と一色川の合流付近）
 - ・岩村川（山上交差点付近から下流）
 - ・富田川（7区・石田橋から富田橋の間）
 - ・富田川（8区・寺前橋から吉田川合流までの間）
 - ・飯羽間川（岩村川合流地点から上流）
- ※恵那土木が今年度岩村川、一色川、富田川、吉田川の浚渫を予定

②道路改修等

- ・大規模な要望なし
- ・小規模な道路陥没補修等は多数あり → その都度関係各課へ要望済

3. 上記以外の要望

- ①重要伝統的建造物群保存地区の保存・整備
- ②岩村振興事務所庁舎環境の充実
- ③城下町広場の整備
- ④水晶山周辺文化遺産の保存

令和3年度岩村地域自治区運営協議会部会（案）

1. 目的

岩村地域自治区総合計画の推進を図るため、3つの柱「訪れたいまち」、「住み続けたいまち」、「笑顔あふれるまち」に基づき、部会ごとに進行管理を行う。

2. 部会の進め方

- ①部会ごとに各施策の現状と課題の確認（特に重点事項）
- ②各部会で重点事項を中心に議論 ※部会長の判断で、部会員以外の出席可
- ③課題解決策等をまとめる。
- ④地域自治区運営協議会役員会で各部会の進捗状況等を把握し、必要に応じて助言等を行う。
- ⑤各部会の取りまとめについては、ホットいわむらだよりを通じて住民への周知を行う。

3. 部会スケジュール（案）

- ①第1回 令和3年7月～8月
- ②第2回 令和3年10月～11月
- ③第3回 令和4年1月～2月

4. 部会協議事項及び名簿

①訪れたいまち部会

<重点事項>

- ・旧岩村振興事務所の活用
- ・いわむらランドデザインの見直し ※別途設置する策定委員会が主体
- ・リニア中央新幹線開通を目指したまちづくり

<地域計画の施策>

岩村城跡の保存と景観対策、外国人の誘客対策、新しい観光資源の活用・リピーター対策、特産品の企画・開発、空き家対策、人材確保（育成）

| 役職名 | 氏名 |
|------|----------------------------------------------|
| 部会長 | 加藤哲也 |
| 副部会長 | 瀬戸利之 |
| 部会員 | 松井宏次、山村善保、西尾秋治、竹内雄城、松浦陽平、山本耕嗣、鈴木明美、渡曾延彦、西尾公男 |
| 事務局 | 近藤明浩、宮地正敬 |

②住み続けたいまち部会

〈重点事項〉

- ・自治会加入率の向上
- ・太陽光発電事業
- ・移動手段の見直し

〈地域計画の施策〉

空き家を出さない活用支援、自治会の活性化、交通手段の確保、住みやすい環境の確保

| 役職名 | 氏名 |
|------|-------------------------------------------------|
| 部会長 | 松浦史和 |
| 副部会長 | 宮澤博光 |
| 部会員 | 後藤俊彦、佐々木繁典、鈴木繁生、鈴木正臣、鈴木孝司、伊佐地陽一、中根敏雄、山本さちよ、森川彰夫 |
| 事務局 | 山辺孝夫、吉村理恵 |

③笑顔あふれるまち部会

〈重点事項〉

- ・旧岩村振興事務所の活用
- ・地域学校協働活動の推進
- ・文化財・伝統文化の保存・活用・継承

〈地域計画の施策〉

安心して遊べる・預けられる場所の確保、子ども同士の交流（上下と横のつながりを創る、郷土を愛する心を育てる（地元を誇りを持つ）、若者が結婚し地元に残るために、子どもの笑顔でみんなも笑顔、心と体の健幸

| 役職名 | 氏名 |
|------|-----------------------------------------------|
| 部会長 | 小栗 廣泰 |
| 副部会長 | 鈴木 隆一 |
| 部会員 | 浅野信之、長谷川哲郎、梅田慎一、伊藤忠二、三宅祥市、藤井孝司、片桐祐介、大島明浩、丸山成之 |
| 事務局 | 福平栄久、川原広子 |

恵那太陽光発電所（飯羽間）について

1. 4月以降の経緯

- ・ 令和3年4月7日 飯羽間3区役員と打合せ（服部市議、所長）
役員改選により、今後の対応を協議
- ・ 令和3年4月17日 御船ホールディングスによる環境調査
- ・ 令和3年4月下旬 御船ホールディングスより説明会の開催依頼
→コロナ禍のため説明資料の送付を依頼
- ・ 令和3年5月30日 飯羽間3区役員と打合せ（服部市議、所長）
御船ホールディングス送付資料により対応協議
→内容確認等
今後、協定書の作成を進める方向で確認

2. 今後の予定

- ・ 令和3年6月20日 飯羽間3区役員と打合せ（服部市議、所長）
 - ・ 御船ホールディングス資料等に基づき協定書作成準備
- ・ 令和3年7月（未定） 御船ホールディングスによる説明会開催

令和3年度 恵那市総合防災訓練 実施要領

1. 趣 旨 訓練による新型コロナウイルスの感染を防ぐため、密になることを避けるなど、感染拡大防止を考慮した上で、可能な範囲の訓練を実施する。
2. 目 的 自治会長等による事前の聞き取り及び市民メールによる防災ハザードマップの配信を実施することで、自身の住居が危険箇所にかかる場所であるかを確認する機会を提供し、実災害時の早期の避難行動つなげる。
また、地域との情報伝達の流れを訓練で確認することにより、実災害が発生した場合での地域との迅速な情報連携を可能にすることを目的とする。
3. 日 時 **令和3年9月5日（日） 午前8時00分から**
4. 実施場所 市内全域
5. 訓練想定 8月30日に太平洋マリアナ諸島南で発生した熱帯低気圧は、31日には台風となり西に進み、9月1日にはサイパン島の東を北上しながら最大で890 hPaまで勢力を発達させた。一方、台風の影響もあり、朝鮮半島から東北地方にかけて停滞する梅雨前線に向かって、南西から暖かく湿った空気が入ったため、東濃地方の大気の状態は非常に不安定になった。このため、気象庁は5日8時に岐阜県東濃地域に「大雨警報、洪水警報」を発表した。
市長は5日8時に市内全域に避難指示を発令。全ての指定避難所を開設し、各地区自主防災組織へ、避難所の運営を依頼した。
6. 情報の事前集約 **自治会での世帯人数確認と同時に「災害時の避難行動」、「これまでのハザードマップの確認の有無」を確認**し、平常時の防災啓発及び有事の際の避難所開設等の基礎資料とする。
7. 実施方法
 - (1) 市民メールによる情報発信訓練
 - ① 市は、市民メール、音声告知器、防災行政無線にて避難指示の伝達、避難所開設の連絡を実施する。
※なお、全市民を対象とした参集訓練は、新型コロナウイルスの感染防止に鑑み、実施はしない。
 - ② 市は、市民メールに市HP内の防災ハザードマップURLを添付し配信する。市民は、自宅及び市内在住の身内の居住地付近の危険個所を確認する。

- ③ 消防団員等は、防災ハザードマップ等を参考に、土砂災害及び洪水ハザードエリアの住民に対して、安全な場所への避難を呼びかける。

(2) 人員報告訓練

- ①各自治会は、事前に作成した「【様式1】令和3年度 基礎情報票」を基に、
て自治会内の人数（全員安否確認ができたものとする）を区長に報告する。
②各区長は、区内の人数を地域自治区会長に報告する。
③地域自治区会長は、現地災害対策本部に、地域内の人数を報告する。
④現地対策本部は、災害対策本部に地域内の人数を報告する。

【報告目標時間】

- ① 自治会長 → 区長 8:15
② 区長 → 地域自治区会長 8:30
③ 地域自治区会長 → 現地対策本部 8:45
④ 現地対策本部 → 災害対策本部 9:00

(3) 地区別訓練【各地域の企画内容による】

人員報告訓練後、新型コロナウイルスの感染防止に配慮した上で、各地域にて実施可能な範囲で地区別の訓練を実施する。

○実施する場合 【様式2】令和3年度恵那市総合防災訓練企画書に記入

【訓練例】

- ・ 避難所開設・設営訓練
- ・ 危険箇所の確認
- ・ 各種図上訓練（避難経路確認、避難行動説明動画視聴 等）

○企画書報告期限 令和3年8月6日（金）

8. 参加予定団体等 地域自主防災組織・恵那市消防団・民生委員・
恵那市防災研究会・防災士等

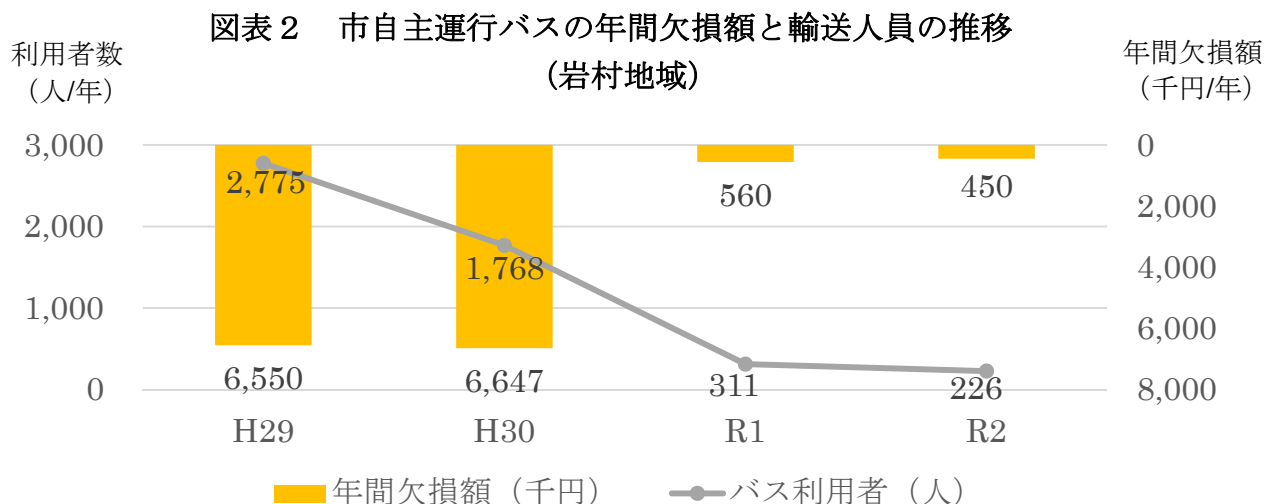
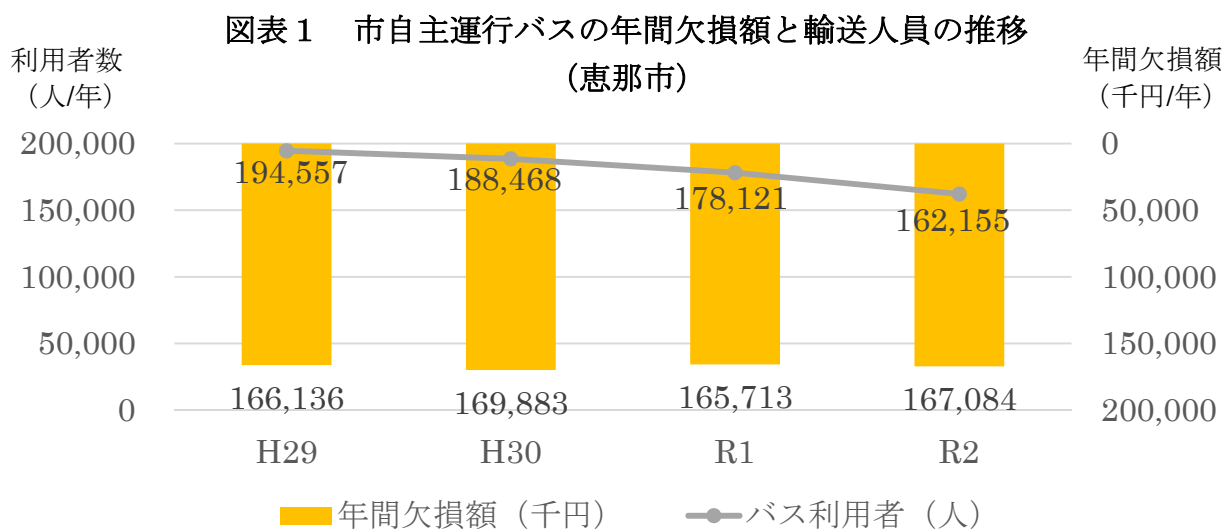
9. その他 有事の際の避難行動についての説明動画を地域に提供し、市民の
早めの避難行動の機運を醸成する。

1. 恵那市と岩村地域の公共交通の現状と課題

(1) 恵那市と岩村地域の公共交通の現状と課題

恵那市ではこれまで「自主運行バス」の運営により、地域の足を支えてきました。しかし、人口の減少や少子化に伴う通学利用の減少等に伴い、バス利用者数は年々落ち込み、年間欠損額（市補填）が徐々に増加しています。今後、恵那市の収入が減少していくことを踏まえ、自主運行バスのあり方について考え直す必要があります。

岩村地域では平成30年10月からデマンドバスを導入し、年間欠損額が大きく減少しました。しかし、利用者も大きく減少しています。今後は利用者が増加するような取り組みが必要となります。



また、公共交通の利便性が低いためか、高齢化の進行に伴い高齢者の免許保有率が増加しています。今後、免許返納などにより移動手段が限定されることが考えられ、より利用しやすい交通体系を整備する必要があります。

(2) 岩村地域の路線の経営状況

| | | |
|-------------|-----------|----------|
| 年間輸送人員 | A | 226 人 |
| 通学補助利用人員 | B | 0 人 |
| 総実車走行キロ | C | 740 キロ |
| 運行経費 | D | 513 千円 |
| 経常収入 | E | 63 千円 |
| 年間欠損額 | $F=D-E$ | 450 千円 |
| 通学費補助(定期のみ) | G | 0 千円 |
| 人口 | H | 4,869 人 |
| 実質利用者当たり欠損額 | F/A | 1991 円/人 |
| 収支率 | E/D | 12.3 % |
| 実質収支率 | $(E-G)/D$ | 12.3 % |

※令和2年度の数値

(3) 地域の運行体系

| 運行体系 | 地域 |
|---------------|------------------------|
| 営業路線+自主運行バス | 大井、長島、明智 |
| 自主運行バス | 東野、三郷、武並、笠置、中野方、明智、上矢作 |
| デマンドバス | 岩村 |
| 自主運行バス+デマンドバス | 山岡 |
| 自主運行バス+有償運送 | 飯地、串原 |

(4) 地域の取り組み状況

| 地区 | 中野方 | 飯地 | 串原 |
|-------|-------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------------------|
| 運行名称 | おきもり | いいじ里山バス | くしバス |
| 区分 | 無償 | 有償 | 有償 |
| 運行主体 | NPO まめに暮らそまい会 (中野方地域協議会) | 飯地地域自治区運営委員会 | 串原地域自治区運営協議会 |
| 運行区域 | 町内 | 町内 町内から河合バス停 | 町内 |
| 対象者 | 町民(事前登録必要) | 会員登録者 | 会員登録者 |
| 運行日 | 平日(年末年始以外) 午前8時30分～午後4時00分 | 月～金(年末年始以外) 平日:午前8時30分～午後8時頃 土日祝:午前7時30分～午後7時30分 | 年末年始以外 午前6時00分～午後21時00分 |
| 利用方法 | 電話による予約 | 電話による予約 | 電話による予約 |
| 運賃 | 無料 | 町内100円・町内～河合バス停300円 河合バス停で乗継ぎ恵那駅500円 | 大人200円・小人100円 |
| 運行車両 | ホンダフリード(7人乗り) | トヨタハイエース(10人乗り) | セレナ(8人乗り) バレット(4人乗り) |
| 運転士 | 町内ボランティア(講習有) | 運転者講習受講者 | 運転者講習受講者 |
| 財源 | NPO事業 | 運賃・市補助金 | 運賃・市補助金 |
| 運行開始日 | 平成22年3月 | 平成28年11月 | 平成30年10月 |

| 地区 | 上矢作 | 山岡 | 笠置 |
|-------|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 運行名称 | 日常生活支援 | やまおか健幸・福祉事業 | みかさぎ |
| 区分 | 無償 | 無償 | 無償 |
| 運行主体 | かみやはぎ 日常生活支援委員会 | 山岡地域自治区運営委員会 | 笠置地域協議会 安心安全なまちづくり分科会 |
| 運行区域 | 町内 | 町内 | 町内 町内から恵那病院、コンビニ |
| 対象者 | 町民(事前登録必要) | 町民75歳以上(事前登録必要) | 町民65歳以上(事前登録必要) |
| 運行日 | 平日(年末年始以外) 午前10時00分～午後3時00分 | 平日(年末年始以外) 午前9時00分～午後5時00分 | 平日(お盆・年末年始以外) 午前9時00分～午後3時00分 |
| 利用方法 | 電話による予約 | 電話による予約 | 電話による予約 |
| 運賃 | 無料 | 無料 | 実車走行分のガソリン代 |
| 運行車両 | サービス提供者の車両 | 山岡地域自治区所有車両 | 運転士の車両 |
| 運転士 | 町内ボランティア | 町内ボランティア | 町内ボランティア |
| 財源 | 社協協力金・過疎債積立事業 | 市まちづくり活動事業 | 市まちづくり活動事業 |
| 運行開始日 | 平成25年5月 | 平成30年10月 | 令和2年9月1日から令和5年3月 31日 |

2. 今後の公共交通のあり方

○趣旨

地域及び利用者からのニーズ及び社会情勢に適した柔軟な交通体系を構築するために、ICT等を活用した、誰もが利用しやすい新たな移動サービスの提供とこれを生かした持続可能なまちづくりを実現する必要がある。

○基本施策

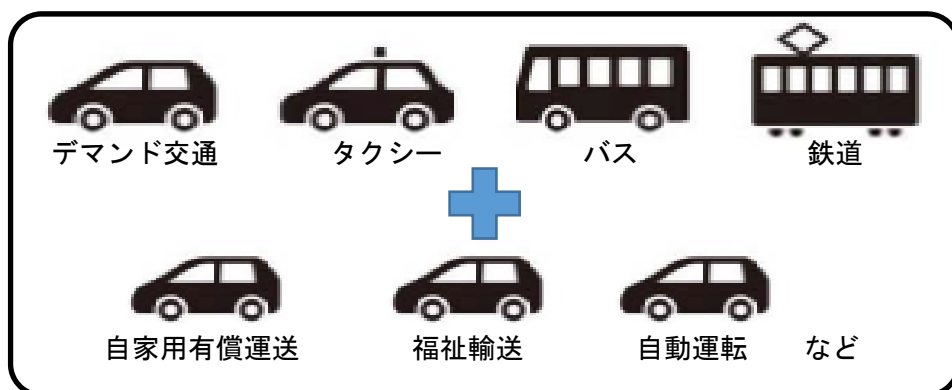
《行きたいところへ行ける》

市民や来訪者が行きたいところに行くことができるように、各種の移動手段について総合的な利便性の向上を図る。

○取組み方

【移動環境の維持・再編】

地域ごとに、バスなどのサービス維持を図りながら、その他の移動手段を総動員して移動ニーズに対応した環境を整備する。



【移動円滑の環境整備】

利用者が抵抗なく自然に移動できる環境が提供できるよう、将来に備えて、運賃の統合やキャッシュレス化、自動運転などの新たな仕組みや技術の導入に向けた調査研究・実証実験を進める。



3. 検討の進め方

○検討していただきたい内容

- ・現状の路線をベースに改善・利用促進を図る
- ・現状の路線以外に他の移動手段を取り組む
- ・現状の路線を減便・隔日等の運行に変更する
- ・その他

○基本的な流れ

R3.5～【第1回目】

地域の課題認識 地域状況の紹介
既存バスで対応できている・できていない etc

R3.6～【第2～○回目】

再構築に向けたアイデア 改善すべき便・区間
見直したたき台2～3案の提示 etc

【第○回目】

運営方法 1案に絞りつつ意見交換
基本方針の決定

～R3.10【最終】

恵那市地域公共交通計画に反映 地域ごとの基本方針
次年度以降に取り組み

令和3年度岩村地域自治区運営協議会部会（案）

1. 目的

岩村地域自治区総合計画の推進を図るため、3つの柱「訪れたいまち」、「住み続けたいまち」、「笑顔あふれるまち」に基づき、部会ごとに進行管理を行う。

2. 部会の進め方

- ①部会ごとに各施策の現状と課題の確認（特に重点事項）
- ②各部会で重点事項を中心に議論 ※部会長の判断で、部会員以外の出席可
- ③課題解決策等をまとめる。
- ④地域自治区運営協議会役員会で各部会の進捗状況等を把握し、必要に応じて助言等を行う。
- ⑤各部会の取りまとめについては、ホットいわむらだよりを通じて住民への周知を行う。

3. 部会スケジュール（案）

- ①第1回 令和3年7月～8月
- ②第2回 令和3年10月～11月
- ③第3回 令和4年1月～2月

4. 部会協議事項及び名簿

①訪れたいまち部会

<重点事項>

- ・旧岩村振興事務所の活用
- ・いわむらランドデザインの見直し ※別途設置する策定委員会が主体
- ・リニア中央新幹線開通を目指したまちづくり

<地域計画の施策>

岩村城跡の保存と景観対策、外国人の誘客対策、新しい観光資源の活用・リピーター対策、特産品の企画・開発、空き家対策、人材確保（育成）

| 役職名 | 氏名 |
|------|----------------------------------------------|
| 部会長 | 加藤哲也 |
| 副部会長 | 瀬戸利之 |
| 部会員 | 松井宏次、山村善保、西尾秋治、竹内雄城、松浦陽平、山本耕嗣、鈴木明美、渡曾延彦、西尾公男 |
| 事務局 | 近藤明浩、宮地正敬 |

②住み続けたいまち部会

〈重点事項〉

- ・自治会加入率の向上
- ・太陽光発電事業
- ・移動手段の見直し

〈地域計画の施策〉

空き家を出さない活用支援、自治会の活性化、交通手段の確保、住みやすい環境の確保

| 役職名 | 氏名 |
|------|-------------------------------------------------|
| 部会長 | 松浦史和 |
| 副部会長 | 宮澤博光 |
| 部会員 | 後藤俊彦、佐々木繁典、鈴木繁生、鈴木正臣、鈴木孝司、伊佐地陽一、中根敏雄、山本さちよ、森川彰夫 |
| 事務局 | 山辺孝夫、吉村理恵 |

③笑顔あふれるまち部会

〈重点事項〉

- ・旧岩村振興事務所の活用
- ・地域学校協働活動の推進
- ・文化財・伝統文化の保存・活用・継承

〈地域計画の施策〉

安心して遊べる・預けられる場所の確保、子ども同士の交流（上下と横のつながりを創る、郷土を愛する心を育てる（地元を誇りを持つ）、若者が結婚し地元に残るために、子どもの笑顔でみんなも笑顔、心と体の健幸

| 役職名 | 氏名 |
|------|-----------------------------------------------|
| 部会長 | 小栗 廣泰 |
| 副部会長 | 鈴木 隆一 |
| 部会員 | 浅野信之、長谷川哲郎、梅田慎一、伊藤忠二、三宅祥市、藤井孝司、片桐祐介、大島明浩、丸山成之 |
| 事務局 | 福平栄久、川原広子 |

恵那太陽光発電所（飯羽間）について

1. 4月以降の経緯

- ・ 令和3年4月7日 飯羽間3区役員と打合せ（服部市議、所長）
役員改選により、今後の対応を協議
- ・ 令和3年4月17日 御船ホールディングスによる環境調査
- ・ 令和3年4月下旬 御船ホールディングスより説明会の開催依頼
→コロナ禍のため説明資料の送付を依頼
- ・ 令和3年5月30日 飯羽間3区役員と打合せ（服部市議、所長）
御船ホールディングス送付資料により対応協議
→内容確認等
今後、協定書の作成を進める方向で確認

2. 今後の予定

- ・ 令和3年6月20日 飯羽間3区役員と打合せ（服部市議、所長）
 - ・ 御船ホールディングス資料等に基づき協定書作成準備
- ・ 令和3年7月（未定） 御船ホールディングスによる説明会開催

令和3年度 恵那市総合防災訓練 実施要領

1. 趣 旨 訓練による新型コロナウイルスの感染を防ぐため、密になることを避けるなど、感染拡大防止を考慮した上で、可能な範囲の訓練を実施する。
2. 目 的 自治会長等による事前の聞き取り及び市民メールによる防災ハザードマップの配信を実施することで、自身の住居が危険箇所にかかる場所であるかを確認する機会を提供し、実災害時の早期の避難行動つなげる。
また、地域との情報伝達の流れを訓練で確認することにより、実災害が発生した場合での地域との迅速な情報連携を可能にすることを目的とする。
3. 日 時 **令和3年9月5日（日） 午前8時00分から**
4. 実施場所 市内全域
5. 訓練想定 8月30日に太平洋マリアナ諸島南で発生した熱帯低気圧は、31日には台風となり西に進み、9月1日にはサイパン島の東を北上しながら最大で890 hPaまで勢力を発達させた。一方、台風の影響もあり、朝鮮半島から東北地方にかけて停滞する梅雨前線に向かって、南西から暖かく湿った空気が入ったため、東濃地方の大気の状態は非常に不安定になった。このため、気象庁は5日8時に岐阜県東濃地域に「大雨警報、洪水警報」を発表した。
市長は5日8時に市内全域に避難指示を発令。全ての指定避難所を開設し、各地区自主防災組織へ、避難所の運営を依頼した。
6. 情報の事前集約 **自治会での世帯人数確認と同時に「災害時の避難行動」、「これまでのハザードマップの確認の有無」を確認し、平常時の防災啓発及び有事の際の避難所開設等の基礎資料とする。**
7. 実施方法
 - (1) 市民メールによる情報発信訓練
 - ① 市は、市民メール、音声告知器、防災行政無線にて避難指示の伝達、避難所開設の連絡を実施する。
※なお、**全市民を対象とした参集訓練は、新型コロナウイルスの感染防止に鑑み、実施はしない。**
 - ② 市は、市民メールに市HP内の防災ハザードマップURLを添付し配信する。市民は、自宅及び市内在住の身内の居住地付近の危険個所を確認する。

- ③ 消防団員等は、防災ハザードマップ等を参考に、土砂災害及び洪水ハザードエリアの住民に対して、安全な場所への避難を呼びかける。

(2) 人員報告訓練

- ①各自治会は、事前に作成した「【様式1】令和3年度 基礎情報票」を基に、
て自治会内の人数（全員安否確認ができたものとする）を区長に報告する。
②各区長は、区内の人数を地域自治区会長に報告する。
③地域自治区会長は、現地災害対策本部に、地域内の人数を報告する。
④現地対策本部は、災害対策本部に地域内の人数を報告する。

【報告目標時間】

- ① 自治会長 → 区長 8:15
② 区長 → 地域自治区会長 8:30
③ 地域自治区会長 → 現地対策本部 8:45
④ 現地対策本部 → 災害対策本部 9:00

(3) 地区別訓練【各地域の企画内容による】

人員報告訓練後、新型コロナウイルスの感染防止に配慮した上で、各地域にて実施可能な範囲で地区別の訓練を実施する。

○実施する場合 【様式2】令和3年度恵那市総合防災訓練企画書に記入

【訓練例】

- ・ 避難所開設・設営訓練
- ・ 危険箇所の確認
- ・ 各種図上訓練（避難経路確認、避難行動説明動画視聴 等）

○企画書報告期限 令和3年8月6日（金）

8. 参加予定団体等 地域自主防災組織・恵那市消防団・民生委員・
恵那市防災研究会・防災士等

9. その他 有事の際の避難行動についての説明動画を地域に提供し、市民の
早めの避難行動の機運を醸成する。